

<出題方針>

中学校学習指導要領に基づき、各教科とも標準の授業時数で学習する範囲とし、中学校で学習する基礎的・基本的な内容に重点を置き、思考力、判断力及び表現力などが的確に把握できる出題とする。

<特徴>

中学校で学習する基礎的・基本的な内容について、資料や図表、解説文等を用いて、語句の記述や図表の作成等の問題を設け、受検生がさまざまな見方や情報を比較・分析し、総合的に考え、判断・解決し、表現できるかどうかをみた。

<各教科の特色と傾向>

【国語】

- 1 古文では、実際の体験によって師の歌のよさがわかることとなったいきさつを述べた文章を読み取る力をみるとともに、歴史的仮名遣いなどについて問い、古典を理解する基礎が身に付いているかをみる出題とした。

〔出典〕『^{ささなみひつわ}泊泊筆話』(新日本^{はまおみ}古典文学大系 岩波書店)

江戸時代の国学者清水浜臣の作。賀茂真淵一門の事績を主とした逸話集で、35条からなる。文化10年(1813年)成立か。

問題文は、作者が雲の中から現れる富士山を目の当たりにしたことで、師村田^{はるみ}春海の歌のよさがわかったいきさつを記した部分である。具体的な作者の経験と和歌の内容を結びつけて読解することで、古文のおもしろさに気づかせ、古典に親しむ態度を育て古典への関心を深めさせたい。

- 2 現代文では、日本における伝統的工芸品とその産業の在り方について述べられた文章を読み、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえて内容を理解することにより、我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深めるような出題とした。

〔出典〕『「人心の華」としての伝統的工芸品』 宮崎清

(伝統的工芸品産業振興協会「伝統的工芸品読本 現代に生きる伝統工芸」より)

問題文は、千葉大学工学部において長らくデザイン教育・研究に携わってきた宮崎清氏による『「人心の華」としての伝統的工芸品』の一部である。出題した部分には、日本の産業文化の真に豊かな発展のために大きな役割を果たす可能性を持つものとして、「伝統的工芸品とその産業」がとりあげられる。国際社会においてそれらに対する理解を広げることの重要性が説かれるとともに、近代化の中心となってきた工業によってもたらされた物質文明のなかに、「日本の顔」としての伝統的工芸品とその産業を共存させることの大切さが述べられる。

論理の展開の仕方を的確にとらえるとともに、今後の日本の文化・文明の在り方について、多角的な視点を持つという態度を養いたい。

【社会】

- 1 中学校での、調べ方や学び方を学ぶ学習をふまえて、フィールドワーク的な要素をもった設問とした。地図の読図や、景観写真及び統計資料などの読み取り、作業的要素を取り入れた問題を通して、基礎的・基本的な内容についての理解をみるとともに、論理的な思考力や複数の資料を活用する力をみた。
- 2 学習指導要領の趣旨を生かし、学習の過程を重視する問題を設け、その定着の度合いをみるとともに、身近なことがらを例にした問題、時事的なことがらに関する問題を設け、社会の諸問題に着目させた。
- 3 小問の数は、各分野の授業時間数等に留意したものとした。広い視野から社会的事象を総合的にとらえる力の定着をみるため、大問全てを地理、歴史、公民の各分野の内容を関連付けた融合問題とした。また、小問でも地理、歴史、公民の各分野の内容を関連付けた融合問題を設けた。

【数学】

- 1 基礎的・基本的な内容の理解と計算の技能を確かめるとともに、具体的な事象を数理的に考察したり、数量や図形を見通しをもって論理的に考察したりする力をみた。
- 2 実生活に関連付けた問題を設け、論理的な思考力を問うとともに、数学的な見方や考え方のよさに気付くことができるかどうかをみた。

<出題方針>

中学校学習指導要領に基づき、各教科とも標準の授業時数で学習する範囲とし、中学校で学習する基礎的・基本的な内容に重点を置き、思考力、判断力及び表現力などが的確に把握できる出題とする。

<特徴>

中学校で学習する基礎的・基本的な内容について、資料や図表、解説文等を用いて、語句の記述や図表の作成等の問題を設け、受検生がさまざまな見方や情報を比較・分析し、総合的に考え、判断・解決し、表現できるかどうかをみた。

<各教科の特色と傾向>

【理 科】

- 1 観察や実験から得られる情報や基本的概念をもとに考える設問を通して、科学的な見方や考え方が身に付いているかどうかをみた。
- 2 観察や実験の操作に関する設問を通して、科学的に調べる方法についての基本的な理解がなされているかどうかをみた。
- 3 物理、化学、生物、地学の各領域からほぼ均等に出題し、基礎的・基本的な概念を正しく身に付けているかどうかをみた。

【英 語】

- 1 日常生活の場面でよく用いられる表現を通して、基礎的・基本的な内容を問うことにより、英語での実践的なコミュニケーション能力の基礎が身に付いているかどうかをみた。また、実際の言語使用を考慮し、4領域（聞く、話す、読む、書く）を関連付けた出題とした。
- 2 学習指導要領の趣旨を生かし、リスニング問題の割合を全体の30%とした。短い対話文を聞かせ適切な応答ができるかどうか、まとまった内容をもつ対話を聞いて概要を日本語で完成させ大切な部分を正しく聞き取ることができるかどうか、短い対話文に続く英文を選択させ内容を把握しているかどうかをみる設問とした。
- 3 読解問題では、海外での留学生生活を題材として内容を的確に把握する力や、図を参考にし対話から必要な情報を読み取る力をみる設問とした。
- 4 読解問題を検査5-1、リスニング問題を検査5-2として実施することにより、受検者がそれぞれの検査に集中できるようにした。